



ビュフォンの博物誌

杉山 武 敏

普通なら存在しない筈のところが存在している希少本の一つをここにご紹介したい。

1957年に医学部を卒業後、病理学教室に入った時に、病理本館2階に立派な図書室があって、前世紀からのVirchow's Archivなどの貴重な医学や病理学に関する専門誌が天井まで所狭ましと並んでいた。この中に医学と関係のない一群の古書があった。その筆頭がここに紹介するビュフォンの博物誌27冊である。書籍の多くは私の他大学遍歴の30年の間に新設の医学図書館と医学部付属解剖センターに収納され、最後の一部が最近まで残っていた。京都大学に帰任後、この博物誌は元の場所にはなく移動先にも見つからなかった。ある時、清掃中に3階の廃棄予定のごみに混じって紙袋に入れて放置されてあるのを発見した。以来、この博物誌は貴重な歴史図書として出入りの自由な図書室から私の教授室に移して身近に保管していた。

これが、ビュフォン研究家の人間・環境学研究科の高橋義人氏の知るところとなり、その紹介でNHKがこの名著の存在を放映した時も、医学部ではビュフォンの名さえ知らない現実があった。そこで、私自身の興味による調査の後、中央図書館に移管することが必要と考え、その方向で手続きが進みかけたが多忙のために手続

きが延びていた。最近、病理学教室の図書室が整理されたのを機に更なる受難を避けるべく、本書の永久保存を進めるために、この希少本の内容をここに紹介し、この種の貴重な書籍の保存と公開について提言を待ちたい。

ビュフォンCompte Georges-Louis Leclerc de Buffon(1707-88)はフランスの博物学者で知られる。物理学を収め、英国にわたりニュートンの影響も受け、1739年にパリの王立植物園長として登用され、以来生涯園長をつとめた。この間に1749年から『博物誌、Histoire naturelle, generale et particuliere』を1767年までかけて著した。ビュフォンの生きた時代はルイ14世(1638-1715)のブルボン王朝全盛時代から王朝終焉のルイ16世(1754-93)の時代にかけてであり、合理主義、啓蒙主義、革命の波が怒濤のように押し寄せる時代であった。『博物誌』を著すにふさわしい時代であったし、また本書の世に与えた文化的影響の故にビュフォンの名も忘れられない訳である。

『博物誌』初版本44巻は1749年から67年にわたり出版された。最近、我が国でも荒俣 宏監修、ペーカー・直美訳の『ビュフォンの博物誌』が刊行されたことはよく知られている。これは本文の部分訳と1123の図版を含み、我が国で初

めて『ビュフォンの博物誌』を紹介する手近かな出版物として画期的なものであった。荒俣宏監修の『ビュフォンの博物誌』は、しかしながら、129巻に及ぶ1798-1808年に発刊されたSonsoni版（Sonsonによる編集）にもとづくもので、ビュフォン没後10-20年の出版である。

これに対して、本学所蔵のものは27冊54巻からなっており、1785-91年にAux Deux-Ponts, chez Sanson et Compagnieから出版されたもので、次の理由から『ビュフォンの博物誌』の初版本の姿をよく伝えと考えられる。まず、本書はビュフォンの死亡3年前に出版が始まっており、ビュフォンの賛辞と伝記の抜粋が末尾に書かれている最終の27冊目を除いて生前に出版され、ビュフォン自身が企画監修したと考えられる。各巻末に補追記事があることを考えれば、初版本に規模が極めて近く、老熟期のビュフォン自身による『博物誌』の最も完成した姿を示すものと考えられる。一方、詳しく比較するとSonsoni版では図がすべて描き直されている。背景の樹木、葉、岩、構図までが変えられていて似てはいるが同一のものは一つもない。本書では幾種類かを集合で描かれているのが、Sonsoni版では分類上の無理が出来たためか種ごとに描き分けられている。また、図の質も本学の方が精密で色彩が美しい。着色は、1枚1枚毛筆で描かれ、保存状態もよく、輝くようである。Sonsoni版では多くの新しい動物の図が加えられ、ことに哺乳類が大幅に増え、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫、植物などが新しい巻として追加されている。Sonsoni版はビュフォンの遺志を受け継いで、時代の進歩を組み入れながら新しい図版を加え、時代の要望を満たすために大改版を行ったと考えられる。本文についての詳細な比較はしていないが、内容の追加や改定がみられる。

Britannicaの記述では、彼は生前50巻のうちで36巻を発刊したが、最初の15巻は1749-1767年に、最も注目されたÉpoques de la nature (1778)を含む次の7巻は1774-89年に、美しい鳥の

部分9巻は1770-83に、鉱物の5巻は1783-88に、最後の魚類、爬虫類、頭足類、を含む8巻はビュフォンの死後ラセピド Lacépèdeにより発刊されたという。以上から、本学所蔵のものは、『ビュフォンの博物誌』の初版本ではないが初版本をよく伝え、ビュフォン生前の意図の入った再版本であると考えられる。

疾病の原因を研究する医学部の病理学教室になぜこのような場違いな書籍が配備されたか。その謎について若干考察を試みたい。病理学図書室所蔵のものは、昭和3年11月30日付けの京都帝国大学図書館の朱印がついており、図書番号394196として登録され、医学部教室図書室の分類番号は31、書籍番号は45(1-27)である。病理学教室の建物は医学部の初期の建築と同様、明治33-34年の創立期に山本治兵衛の設計で建てられた。大正15年、当時の藤浪鑑教授時代に用務員の放火で病理学教室の建物の主要部分が貴重な研究資料とともに焼け落ちた。その後、現在の病理本館が設計され、昭和5年に竣工した。本書の登録された昭和3年11月は焼失した資料を再建予算で急いで収集した時期と考えられる。病理学教室の再建は後継者、清野謙次教授によってなされた。当時、予算申請に当たって清野謙次教授は予算金額の末尾に全項目0を一つ書き加えて申請、文部省はそのまま予算を執行したために予算が余り、医学部全講座に備品を買い与えたと伝えられている。清野謙次は病理学のみならず、考古学や人類学、民俗学にも興味尽きない人物で、日本人類の起源を全国規模の貝塚の発掘で追求した人で、民俗学、考古学、地誌学、女性学など広範な領域の書物を買集め、我々も、これらの本を見た記憶がある。『博物学』もこの時期に書籍輸入商から購入したものと考えられる。扉にBesthoren Nr1037-1062とあるのは、前の持ち主の図書番号であろう。また、27冊目の後ろ扉に(27) 120.00とあるのはセット価格であろう。

この『ビュフォンの博物学』がダウイン以前の『種』の考え、フランス革命前後の啓蒙思想、

科学思想を知るうえで貴重であり、何よりもこのような名著がわが図書館に存在し、図書館や博物館などで歴史資料として展示できることは極めて幸せなことである。今後の専門家による

詳細な調査と活用を期待したい。

平成13年1月23日記す。

滋賀県立成人病センタ - 研究所長(元京都大学教授)

(すぎやま たけとし)



図1. 第1巻の扉。1785年刊とある。本のサイズは10.0 x 16.5 x 5.0-6.0cm。

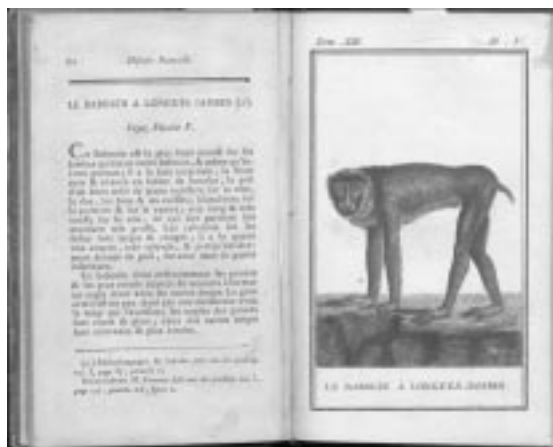


図2. 第27冊の四足獣13巻P62のヒヒ。



お知らせ

企画展『近世の京都図と世界図』

大塚京都図コレクションと宮崎市定氏旧蔵地図

開催期間：6月1日(金)～6月30日(土)月・火曜休館

開催時間：午前9時30分～午後4時30分
(入場は4時まで)

会場：京都大学総合博物館(2階)展示室

記念講演会 『近世京都図の特性』

講師▶金田章裕氏(京都大学大学院文学研究科教授)
日時▶平成13年6月12日(火) 午後1時30分～3時
場所▶京都大学附属図書館(3階)AVホール(入場無料)

本展示会は、例年秋に開催しています公開展示会を、今年は京都大学総合博物館開館記念協賛企画展として、昨年度附属図書館が寄贈をうけた、大塚京都図コレクションならびに宮崎市定氏旧蔵地図の中から、あわせて80余点を展示します。



大塚京都図コレクションは、大塚隆氏が長年にわたって蒐集された近世刊行の京都古地図の一大コレクションです。居ながらにして近世京都の市街と洛外の名所に遊ぶことができますと同時に、墨刷りから色刷りへ、木版から銅版へと印刷技術の歴史をもたどることができるものです。

一方、宮崎市定氏旧蔵地図は、故宮崎市定名誉教授が在外研究員としてパリ滞在中に蒐集された西洋古版地図及び地図帳等で、しだいに精度を増していく世界図によって、ヨーロッパにおける地理的な知識の増大と世界観の変化をみることができます。

事務部長に着任して

附属図書館事務部長 門田 泰典

最初に本学の数理解析研究所図書室に採用されてから中央館に異動した後、当時図書館の電算化の先導的試行を検討していた大阪大学に配置換えとなってから、丁度30年ぶりに京都大学に帰ってまいりました。この間、筑波大学、東京工業大学、東北大学、埼玉大学、新潟大学の5大学図書館の管理職を経験させていただきました。京都大学の図書館については、昨年行なわれた外部評価報告書に記されているようにいろいろの課題が指摘されておりますが、まだ着任後日も浅いため、これを整理・体系化して何らかの方向性を示すには、いましばらく時間をいただくこととして、ここでは、本学が全国の大学図書館に先駆けて進めている電子図書館化が促しているいくつかの方向性について、私見を述べさせていただくことで着任の挨拶に代えたいと思います。

1) 研究者個人を対象とするサービスの拡大・普及
附属図書館が進めている電子図書館化にともなって、全学で共有できる電子化された研究用資料(電子ジャーナルや電子化された本学貴重資料など)やウェブによる対研究者向けサービスが増えてきております。これらは、これまでの附属図書館では考えられなかった研究者個人を対象とする附属図書館による研究者向けの直接的サービスといえます。図書館の電子図書館化は正に附属図書館による大学全構成員に対する直接的サービスの実現を目指しているように思われます。附属図書館としては、今後図書館サービスのあらゆる面で大学構成員の一人一人と直接関係を持ちまた、大学全構成員のサービスへの参加・活用を呼びかける努力をする必要があると考えています。したがって、今後の附属図書館の課題の一つはこのような直接的なサービス拡大・普及のための全学的な図書館システムを準備・考案して行くことではないかと考えております。

2) 電子ジャーナル購入経費負担について

附属図書館はいま、全学的な利用が可能な電子ジャーナルの利用契約に伴う経費の効果的な使用とその負担の公平化という新たな課題に直面しております。



まず経費の効果的な運用面では、電子ジャーナル利用のための経費は、現在購読中の冊子体の経費をベースに若干の追加経費もしくは前年度なみの経費負担でもってその出版社の発行するすべてのタイトルを利用できる契約条件が一般的であります。このため大規模大学であって、多くの重複購入があり関係分野の研究者・大学院生が多い本学ではわずかの経費負担増で、重複購入を減らしつつ本学で購入していない関連分野の電子ジャーナルがより多く見られるという二重のメリットがあります。しかしながら、このメリットが次に述べる外国雑誌の経費負担の構造のためうまく生かされないことがあります。即ち、負担の公平化の面では、現状の経費負担は研究者個人の研究費の積み上げによるものであり、その分野の中心的なコアジャーナルについて言えば電子ジャーナルとして学内での多くの他の研究者の利用のための経費を一人の研究者が賅っていることになっております。このような経費負担構造のため困っていることは、出版社との契約交渉において、経費負担者が個々の研究者であるため、前年度なみの契約額を維持するとの約束ができないこと、また、若干の追加経費を附属図書館で補填できないことがあります。したがって、全学的な規模で共有が可能な電子ジャーナル導入は全学的な利用を前提とし

た共通の経費によることがいるんな点で大変望ましいことが判明してきたわけです。現在外国雑誌の購入に充てられている研究費について、その一定率をあらかじめ図書館に共通経費として配分していただくことが望まれる次第です。附属図書館は少しずつではありますが、FRAF資料室の設置（昭和40年）、バックナンバーセンターの設置（昭和60年）、日本における理工学系外国雑誌センター館の指定（昭和62年）、文部省の大型コレクション経費と特別図書経費による研究用資料の収集、などのように研究図書館的な活動を積重ねてきております。電子図書館化の進展は益々この傾向を加速化するものと考えますが、これが実現されれば研究用図書館資料費に支えられた本格的な研究図書館機能を備えた大学図書館が日本にようやく実現することになるわけですので、この実現は電子図書館化の一層の進展のための当面の目標のように思われます。

3) 統合的電子的サービスの提供

次に、附属図書館が提供している電子図書館的サービスは大学全体の情報化が進まないとい効果的に活用されないと考えています。ワン・ストップサービスが普及してきておりますが、研究者の立場からすると、研究・教育支援として一般事務や図書館からサービスされるだけ多くの手続きが電子サービス化され、それら

が統合されて提供されていることが望まれます。この意味で電子図書館化の次の目標の一つは大学事務の情報化も含めた大学情報化の一層の深化であると考えます。図書館がこの面でもできるだけ大学内の多くの情報化に関心を持ちこれと連携していきたいと考えております。特に大学評価・学位授与機構の大学評価事業の本年度の評価テーマにもなっておりますが、教養教育における対学生サービスの面で教官・事務官・図書館員が連携協力したサービスが望まれます。そうすることによりもう一つの電子図書館化の課題である教育支援の面での一層のサポートの道が開けるものと考えております。

最近、情報化、留学生、国際化、など全学的に取り組んだほうがより効果的で効率上がる事柄が増えてきております。図書館の研究用資料としての電子ジャーナルの問題はこの典型的な例です。これまで図書館に関する問題は附属図書館固有の問題として商議会で検討されてきておりますが、これとともに、部局を超えた全学に共通する問題について、図書館も教育・研究支援組織の一員として、相互に連携してその解決に寄与できる事例が大学の情報化や電子図書館化の進展とともに増えてくることを願っております。

（かどた やすすけ）

Mizuta, Hiroshi 『Adam Smith's library; a catalogue. Oxford, Oxford Univ. Press, 2000』 のことなど

附属図書館情報サービス課雑誌・特殊資料掛長 松田 博

水田 洋編『アダム・スミス蔵書目録』が2000年11月にオックスフォード大学出版から刊行された。スミスの蔵書約3000冊のほとんどが明らかにされたと言える。

この『目録』が、数多い書誌群の中であってひととき異彩をはなつのは、機関所蔵等資料の所蔵箇所を明確にしているところにある。この

種の資料の所蔵箇所は固定化のはかりにくい流動性の高いものであるが、『目録』は氏の強靱で丹念な仕事の結果を見事にまとめている。心から歓迎したい。同時に、1997年の時点ですでに原稿が完成し、刊行の準備が着々と進行していたにもかかわらず、出版社の都合によって3年余りが費やされたことは極めて残念なことで

あった。编者ならずともこの『目録』の刊行を期待していたものすべてのものが同じ思いを持ったのではないだろうか。このあたりの事情については、水田洋（ 1、 2）を御覧いただきたい。

『目録』の中から、スミス旧蔵書の日本における所蔵状況をとりあげてみると、東京大学経済学部（149部324冊）、日本大学法学部（4部26冊）、日本大学歯科病院（1部1冊）、慶応義塾大学（2部2冊）、関東学院大学（1部1冊）、京都大学経済学部（1部2冊）、同志社大学（1部4冊）、福山大学（1部1冊）、丸善（1部1冊）、日本大学大淵利男名誉教授（1部1冊）に各所蔵の総計162点363冊がある。しかし、これ以外にも大阪大学が1987年度大型コレクションとして購入した「アダム・スミスコレクション」81点144冊の中にスミス旧蔵書1点1冊があり、「『A Collection of Adam Smith』大阪大学附属図書館（1990年3月）」にはその旨の注記がみられる。ちなみに、この旧蔵書は『目録』中ではRiley Smith Rare Books所蔵となっている。そこで、これらの中から京都大学所蔵のトムソン『旅行記』について、これは下記出口勇蔵にすでに詳細な紹介があるが、この資料についてあらためて感想めいたことを記しておきたい。

経済学部創設ほどなくの1923（大正12）年6月5日、アダム・スミス生誕二百年記念会が開催され、藤本ビルブローカー銀行が所蔵するデュガルド・スチュアート旧蔵『国富論』（現在は関東学園大学所蔵）が出陳されていたことはすでに触れた。（ 3）この展覧会は展示内容でそのほかにも興味の引かれることがあるが、そのひとつに驚きというか、見過ごすことのできない出来事がある。それは、同志社大学図書館所蔵アダム・スミス旧蔵書一本が出陳されていたながら、展覧会より遡ること5年前に購入されていた京都大学経済学部所蔵の一本が出陳されていたということである。同志社大学図書館所蔵のそれは、“Of the origin and progress of language. Edinburgh, 1773-1787.”と題する4巻本で、その後山崎怜の調査によって明らかに

されているように、モンポドの著になる『言語起源論』である。柴山健三がロンドンに留学していた1913、4年頃古書店で買い求めたもので、その後同志社大学の教師として赴任した柴山が1917年同志社大学に寄贈したものである。

京都大学経済学部所蔵のものは、“[Thomson, William:] Travels in Europe, Asia, and Africa; describing characters, customs, manners, laws, and productions of nature and art: containing various remarks on the political and commercial interests of Great Britain: and delineating, in particular, a new system for the government and improvement of the British settlements in the East Indies: begun in the year 1777, and finished in 1781. London, J. Murray, 1782.”と題する2巻本で、1918（大正7）年11月16日にミュージアム・ブック・ストアから12円20銭5厘で購入したものである。この購入価格から推察されることは、同書が1918年の購入時点ではスミス旧蔵書であるとの認識をもっていたということである。ところが、このスミス旧蔵書は1923年の展覧会に出陳されなかったのである。これはいったいどういうことなのだろうか。

“貴重書”は日本の大学では時として学術・研究利用と離反することがしばしば起こる。ましてや1920年前後というかなり以前の話であってみれば、容易にそうした現象が想像されるのである。トムソン『旅行記』は購入後“貴重書”として保管されたが、スミス旧蔵書としての十分な広報がなされず、その結果展覧会の時点ではその存在が忘れられていたと考えられる。その後出口勇蔵が「経済学古典書」の調査の折りに発見し、公表するまで他の貴重書とともに書庫に眠っていたのである。現在の“貴重書”管理のあり方に対しても教訓とすべき象徴的な出来事として捉えておきたい。

最後に、日本の各機関等に所蔵されているスミス旧蔵書について、これまで触れられた主な文献を紹介しながら、各機関ごとにその整理をしておきたい。

東京大学 経済学部 (149部324冊)

「Alembert, Jean de Roud d' 『Éloges lus dans les séances publiques de l'Académie française.』 Paris, chez Panckoucke, 1779.」
等 141部308冊

・『Adam Smith's Library.』岩波書店
(1951年6月)

・矢内原忠雄「東大経済学部所蔵アダム・スミス蔵書について」(「第一回アダム・スミスの会」(1949年12月)[『アダム・スミスの味』東京大学出版会(1965年6月)に再録]

・水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『商学論集』25巻1、3号(1956年5月、11月)[『アダム・スミスの味』(1965年6月)に再録]

「Thomas, Slack 『The British negociator; or, Foreign exchanges made perfectly easy.』 London, J.Richardson, 1759.」

・大河内一男「S.Thomas, The British Negociator について」『アダム・スミスの味』東京大学出版会(1965年6月)

「Italian Manuscript. 『Ms., on parchment. of Venetian statutes. n.p., no pub., n.d.』」

・田添京二「羊皮紙・手書きの一本『ヴェネチア刑法』について」『アダム・スミスの味』東京大学出版会(1965年6月)

「Waller, Edmund 『Poems, &c. Written upon several occasions, and to several persons.』 6.ed. London, H.Heringman, 1694.」

「Tott, François, baron de 『Mémoires du baron de Totto, sur les Turcs et les Tartares.』 Pt.1-4. Amsterdam, no pub., 1784.」

・水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『経済学論集』第40巻第3号 東京大学経済学会(1974年10月)[『続アダム・スミスの味』東京大学出版会(1984年8月)に加筆再録](上記2点)

「[Poivre, Pierre] 『Voyages d'une

philosophe; ou, Observations sur les mœurs & les arts des peuples de l'Afrique, de l'Asia et de l'Amerique.』 Yverdon, no pub., 1768」

・大河内暁男「アダム・スミス文庫新収蔵書について」『経済学論集』第42巻4号 東京大学経済学会(1976年12月)

慶応義塾大学 (2部2冊)

「『Anacreontis Teii carmina Graece e recensione Guilielmi Baxteri cum eiusdem Henr. item Stephani atque Taneguidi Fabri notis.』 Lipsiae, G. Mulleri, 1776.」

・水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『日本學士院紀要』55巻1号(2000年10月)

「Nicholson, William 『The Scottish historical library: Containing a short view and character of most of the writers, records, registers, law-books, &c., which may be serviceable to the undertakers of a general history of Scotland, down to the union of the two kingdoms in K. James the VI.』 London, L.Child, 1702.」

・Mizuta, Hiroshi 『Adam Smith's Library; a Catalogue. Ed. with an introduction and note by Hiroshi Mizuta.』 London, Oxford Univ. Press, 2000.

日本大学 法学部 (4部26冊)

「Galilei, Galileo 『Opere di Galileo Galilei.』 Vol.1-2. Bologna, HH. del Dozza, 1656.」

「Gibbon, Edward 『The History of the decline and fall of the Roman Empire.』 Vol.1-6. London, W.Strahan, 1776-1788.」

「Swift, Jonathan 『The Works of the rev. Dr. Jonathan Swift, dean of St. Patrick's, Dublin.』Vol.1-17.London, W.Strahan, 1784.」

・水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『経済学論集』第40巻第3号 東京大学経済学会(1974年10月)[『続アダム・スミスの味』東京大学出版会(1984年8月)に加筆再録](上記3点)

「Piozzi, Hester Lynch 『Anecdotes of the late Samuel Johnson, LL.D. during the last

twenty years of his life. 』14.ed. London, T.Cadell, 1786.」

- ・ Mizuta, Hiroshi 『Adam Smith's Library; a Catalogue. Ed. with an introduction and note by Hiroshi Mizuta. 』 London, Oxford Univ. Press, 2000.

日本大学歯学部 松戸病院 (1部1冊)

「 Hunter, John 『 A Treatise on the venereal disease. 』 London, no.pub., 1786.」

- ・ 水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『日本
學士院紀要』55巻1号 (2000年10月)

関東学院大学 (1部1冊)

「 [Mackenzie, Henry] ed. 『 The Lounger. [No.1.] Saturday, Feb. 5. 1785, [-No.CI., 6 January 1787.] 』 [Edinburgh, W. Creech,] 1785-1787.

- ・ 水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『日本
學士院紀要』55巻1号 (2000年10月)

京都大学 経済学部 (1部2冊)

「 [Thompson, William] 『 Travels in Europe, Asia, and Africa. 』 Vol.1-2. London, J.Murray, 1782.」

- ・ 出口勇蔵「W.トムソン『ヨーロッパ・
アジア・およびアフリカ旅行記』(1782
年)について」『アダム・スミスの味』
東京大学出版会 (1965年6月)

同志社大学 (1部4冊)

「 [Monboddo, James Burnett, Lord] 『 Of the origin and progress of language. 』 Vol.1-4. Edinburgh, A.Kincaid & W. Creech, 1773-1787.」

- ・ 山崎 怜「あるスミス蔵書のこと」『香川
大学経済学論叢』第44巻1号 香川大学経
済学会 (1971年4月) [『続アダム・スミ
スの味』東京大学出版会 (1984年8月)
に再録]

大阪大学 (1部1冊)

「 Sannazaro Jacopo 『 Arcadia del dignissimo homo messer Iacopo Sannazaro gentilhvomo Napolitano. 』 Novamente stampata & diligentemente corretta. Venetia, N. Zopino, 1524.」

- ・ 『 A Collection of Adam Smith 』大阪大学
附属図書館 (1990年3月)

福山大学 (1部1冊)

「 Boccaccio, Giovanni 『 Il Decameron di M.Giovanni Boccaccio nuovamente corretto et con diligentia stampato 1725. 』 Londra, T. Edlin, 1725.」

- ・ 「福山大学四大古典派経済学者著作コレ
クション」『福山大学附属図書館報』三
蔵』特別号』福山大学附属図書館
(1989年3月)

日本大学 大淵利男名誉教授 (1部1冊)

「 [Gordon, George] 『 The History of our national debts and taxes from the year MDCLXXXVIII. to the present year MDCCLI. 』 London, M. Cooper, [1751-1753]」

- ・ 水田 洋「アダム・スミスの蔵書」『日本
學士院紀要』55巻1号 (2000年10月)

1 : 水田 洋「アダム・スミスの蔵書」
『日本學士院紀要』第55巻第1号 (2000
年10月)

2 : 水田 洋「私のアダム・スミス研究」
『一橋大学社会科学古典資料センター
年報』No.20 (2000年3月)

3 : 松田 博「『静情』総目次を読む」
『静情』Vol.36, No.4 (2000年3月)

(まつだ ひろし)

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター紹介

人文科学研究所附属漢字情報研究センター - 助手 梶 浦 晋

漢字情報研究センターは人文科学研究所の附属研究施設で、2000年4月に、従来あった東洋学文献センターの改組にともない新たに発足した機関です。東洋学文献センターの機能を強化するとともに、情報化社会の進展に対応し、漢字文化を基調とする東洋学の資料や情報の収集・分析を行うとともに、それらを世界の学界に発信する漢字情報処理システムの研究や開発もおこなっています。



本センターは北白川の住宅地にあるスパニッシュ・ロマネスク様式の建物で、1930年に外務省文化事業部によって東方文化学院京都研究所の所屋として建てられたものです。67年に京都大学に移管され、75年からは東洋学文献センターが使用し、昨年の4月から現センターが使用しています。二階にある講堂を平時は閲覧室として利用していますが、毎年、センターが文部省と共催でおこなっている漢籍担当職員講習会

などの行事の際には講義室としても利用しています。

蔵書は本所の前身のひとつである東方文化学院京都研究所の蔵書を基礎として、今日まで継続収集してきたもので、その中心は東洋学関係の文献です。とくに中国書の収集には意をはらい、一定の計画をたてて必要文献の収集につとめています（2000年度末現在で中国書は約30万冊）。中国書は 四部書 と 新学書 にわけ整理・運用していますが、 四部書 については、中国の伝統的な分類方法を基礎として、本所独自に作成した分類に従い整理し、目録を編纂しています。現在採用している分類は東方文化学院京都研究所時代に作成されたものに若干の改変を加えたもので、日本で行われている漢籍の分類法の主流のひとつとなっています。センターでは、所蔵の文献を利用規程にしたがって学内外に公開し、閲覧、複写、参考業務などを行っています。

所蔵文献の公開のほか、センターでは文献情報活動を事業の大きな柱としています。その一つとして、『東洋学文献類目』



の編纂・刊行があります。これは、世界で発表される新しい東洋学に関する論文及び単行本を、年次ごとにまとめ、内容によって分類し、著者索引をつけたものです。

またさらに研究情報を迅速に提供するため、大型計算機センターと協力して漢籍ならびに漢字を用いた文献の情報検索にコンピュータを利用する研究を開始し、明人の人名録 CHINA1、

唐の詩人李商隱の文集 CHINA2、『東洋学文献類目』CHINA3等のデータベースを構築し、大型計算機センターよりサービスの供用を行っています。これらのデータベースのうちCHINA3は、センターHP上でも部分的に活用できるが、近く装いを新たにして公開する予定です。上記以外に、99年より所蔵の石刻資料拓本の画像データベース化に着手し、既にその一部をセンターHPで公開しています。

このほか全国各地の図書館に所蔵される漢籍の所在情報のデータベース構築をめざし、センターでは、関連諸機関と連携し、その推進をは

かり、本年度から本格的にこの事業をはじめていきます。その一環として、本年度中に上記『京都大学人文科学研究所漢籍目録』所収の漢籍の目録情報のデータベースを完成させる予定です。

また、インターネット上での学術的な漢字利用が急速に進み、現行のコード系では対応しきれない漢字利用をサポートすることに対して、内外の研究者の間から強い要求と期待の聲が上がっており、本センターでは、学術的に適正な漢字管理システムの開発研究を行っています。

(かじうら すすむ)

人事異動(平成13年4月1日付)

附属図書館事務部長	門田 泰典	文学部整理掛長	中川 治夫
総務課専門員	堤 豪範	教育学部図書掛長	山本 修
〃 庶務掛長	小西 久子	法学部閲覧掛	池田ひろ子
情報管理課長	故選 義浩	〃	石村 民子
〃 専門員	西川 慈子	経済学部整理掛長	二郷 智子
〃 受入掛	福島 利夫	医学部閲覧掛	福島美智子
〃 目録掛	江上 敏哲	薬学部図書掛	高井 まな
〃 特殊目録掛長	木村 祥子	工学部図書掛長	渡邊 誠
〃 システム管理掛	天野絵里子	工学部図書掛	舩越 清美
情報サ - ビス課長	淵上 光昭	工学部物理工学系図書室	吉田 誠
〃 相互利用掛	飯田 智子	工学部物理工学系図書室	大橋亜紀子
宇治分館学術情報掛長	菅 修一	工学部電気系図書室	赤澤 久弥
〃 学術情報掛	木村 晶子	人文研漢字情報研究センタ -	秦野 智世
総務部総務課文書企画掛	赤井 規晃	原子炉実験所図書掛	児玉 優子
総合人間学部整理掛長	慈道佐代子	東南アジア研究センター資料部図書室	北村 由美
〃 整理掛	富岡 達治		

蔵書統計（平成13年3月31日現在）

部 局	受入冊数			蔵書冊数			入力冊数		
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
附属図書館	9,880	3,063	12,943	561,220	272,957	834,177	261,012	64,788	325,800
附属図書館宇治分館	183	425	608	28,396	91,743	120,139	4,118	20,729	24,847
総合人間学部	3,326	1,867	5,193	316,371	271,435	587,806	90,546	71,798	162,344
文学部	12,023	8,716	20,739	510,994	343,882	854,876	42,291	86,637	128,928
教育学部	2,612	1,369	3,981	78,450	58,769	137,219	28,617	18,177	46,794
高等教育教授システム開発センター	371	107	478	1,242	766	2,008	0	0	0
法学部	3,436	5,565	9,001	249,445	340,980	590,425	37,258	54,177	91,435
経済学部	4,417	3,421	7,838	229,906	219,854	449,760	44,852	47,532	92,384
理学部	393	1,243	1,636	47,632	200,835	248,467	17,836	49,614	67,450
生命科学研究所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部	734	1,984	2,718	50,313	139,004	189,317	6,835	4,418	11,253
薬学部	276	1,207	1,483	12,041	33,343	45,384	2,980	2,276	5,256
工学部	1,043	1,858	2,901	130,718	206,352	337,070	40,160	33,405	73,565
エネルギー科学研究科	153	82	235	2,985	2,523	5,508	1,511	841	2,352
情報学研究科	435	736	1,171	12,046	55,237	67,283	5,991	17,491	23,482
農学部	1,285	870	2,155	168,211	144,097	312,308	17,516	8,147	25,663
農学部附属農場	0	0	0	586	113	699	6	32	38
農学部演習林	114	118	232	10,411	3,437	13,848	2,301	810	3,111
人文科学研究所	4,368	1,705	6,073	437,624	73,685	511,309	20,407	17,068	37,475
再生医科学研究所	0	0	0	1,825	5,639	7,464	161	264	425
ウイルス研究所	0	42	42	484	10,077	10,561	113	1,188	1,301
基礎物理学研究所	247	2,333	2,580	8,114	66,991	75,105	4,192	27,379	31,571
経済研究所	110	308	418	40,447	33,514	73,961	5,292	12,821	18,113
原子炉実験所	142	1,136	1,278	12,424	33,100	45,524	1,992	3,122	5,114
数理解析研究所	16	720	736	6,461	69,689	76,150	4,158	31,052	35,210
霊長類研究所	398	346	744	6,293	13,496	19,789	4,642	4,280	8,922
東南アジア研究センター	792	4,478	5,270	22,699	79,816	102,515	12,694	33,795	46,489
大型計算機センター	328	238	566	5,091	11,635	16,726	3,024	5,268	8,292
総合情報メディアセンター	0	0	0	226	552	778	3	163	166
環境保全センター	0	48	48	617	1,111	1,728	249	1,096	1,345
放射線生物研究センター	0	0	0	405	1,816	2,221	213	116	329
医療技術短期大学部	320	67	387	24,360	5,689	30,049	4,528	1,367	5,895
生態学研究センター	193	154	347	2,039	4,647	6,686	599	1,247	1,846
人間・環境学研究科	220	462	682	5,036	11,092	16,128	4,282	9,075	13,357
アジア・アフリカ地域研究研究科	3,269	18,539	21,808	9,332	51,417	60,749	6,139	39,639	45,778
そ の 他	5	0	5	1,647	235	1,882	0	0	0
合 計	51,089	63,207	114,296	2,996,091	2,859,528	5,855,619	676,518	669,812	1,346,330

教官寄贈図書一覧（平成13年2月～4月）

所属等	寄贈者氏名	寄贈図書名	出版社	出版年
文学部教授	苧坂 直行	心理学とは何だろうか 改訂版	新曜社	1994
文学部教授	苧坂 直行	岩波講座 認知科学 9	岩波書店	1994
文学部教授	苧坂 直行	コンピュータコントロール	ナカニシヤ出版	1983
文学部教授	苧坂 直行	岩波講座 現代医学の基礎 7	岩波書店	1999
工学部教授	田中 一義	カーボンナノチューブ	化学同人	2001
名誉教授 名誉教授	菅原 努 山岸 秀夫	シリーズ21世紀の健康と医生物学 1 からだを創る	昭和堂	2001
名誉教授 名誉教授	菅原 努 山岸 秀夫	シリーズ21世紀の健康と医生物学 2 環境を活かす	昭和堂	2001
工学部助教授	北條 正樹	千年の京にありて(鉄道ピクトリアル臨時増刊号)	鉄道図書刊行会	2001
総 長	長尾 真	「わかる」とは何か	岩波書店	2001
人・環教授	小川 侃	Responsibility for the Future	Economica Verlag	1994
総人教授	福井 勝義	古代中近東の土器：変遷とその背景	中近東文化センター	1989
総人教授	福井 勝義	エジプト(イスラーム時代)のフィルター	中近東文化センター	1987
総人教授	福井 勝義	ラスター彩陶器：初期ラスター彩から中期ラスター彩への流れ	中近東文化センター	1985
総人教授	福井 勝義	古代中近東における祭具と儀礼	中近東文化センター	1984
総人教授	福井 勝義	小久白墳墓群：サエ(サイ)ノカミ信仰遺跡の調査報告	建設省松江国道工事事務所	1999
総人教授	福井 勝義	上塩冶横穴墓群第28支群	島根県教育委員会	1999
総人教授	福井 勝義	マルカタ南：魚の丘遺跡出土彩画片の研究	早稲田大学古代エジプト調査室	1995
総人教授	福井 勝義	上塩冶築山古墳の研究	島根県教育委員会	1999
総人教授	福井 勝義	洪山池古墳群	建設省松江国道工事事務所	1998
総人教授	福井 勝義	石田遺跡III	島根県教育委員会	1998
総人教授	福井 勝義	西川津遺跡	島根県土木部河川課	1999
総人教授	福井 勝義	山ノ神遺跡・五反田遺跡	建設省松江国道工事事務所	1998
総人教授	福井 勝義	柳神楽探訪記：鹿足郡日原町柳村	島根県古代文化センター	1998
総人教授	福井 勝義	荒船古墳群・荒船遺跡本庄川流域糸里遺跡	島根県教育庁文化課	1998
総人教授	福井 勝義	来待石石切場遺跡群	島根県教育委員会	1998
総人教授	福井 勝義	上沢II遺跡・狐廻谷古墳・大井谷城跡・上塩冶横穴墓群	島根県教育委員会	1998
総人教授	福井 勝義	出雲神庭荒神谷遺跡	島根県教育委員会	1995
総人教授	福井 勝義	板屋III遺跡	島根県教育委員会	1998
総人教授	福井 勝義	嘉久志遺跡・飯田C遺跡・古八幡付近遺跡	建設省中国地方建設局 浜田工事事務所	1997
総人教授	福井 勝義	四ツ廻II遺跡・林廻り遺跡・受馬遺跡	建設省松江国道工事事務所	1996
総人教授	福井 勝義	岩屋口南遺跡	建設省松江国道工事事務所	1996
総人教授	福井 勝義	檀原遺跡・谷川遺跡・殿淵山毛宅前鉢跡	島根県教育委員会	1997
総人教授	福井 勝義	勝負遺跡・堂床古墳	建設省松江国道工事事務所	1998
総人教授	福井 勝義	洪山池遺跡・原ノ前遺跡	建設省松江国道工事事務所	1997
総人教授	福井 勝義	岸尾遺跡・島田遺跡	建設省松江国道工事事務所	1997
総人教授	福井 勝義	トゥール遺跡の発掘調査概報	中近東文化センター	1995
名誉教授	吉田 忠	ベイズ監査入門	ナカニシヤ出版	1997
名誉教授	吉田 忠	協同組合のコーポレート・ガバナンス	家の光協会	2000
名誉教授	吉田 忠	「自己実現としての労働」を目指して	美崎皓追憶出版刊行会	2000
館 長	佐々木丞平	一鷲	一鷲・前田賢一の画業刊行会	1992

所属等	寄贈者氏名	寄贈図書名	出版社	出版年
総人教授	Becker,Carl	Who's who in Australasia and the Far East	IBC Cambridge	1991
総人教授	Becker,Carl	Dictionary of International Biography	IBC Cambridge	1996
総 長	長尾 真	爆発するインターネット	オーム出版局	2000
総 長	長尾 真	「光の未来」に賭けた研究者スピリット	ダイヤモンド社	2001
総 長	長尾 真	NECの100年	日本電気(株)	2000
総 長	長尾 真	志を高く	日本経済新聞社	1999
総 長	長尾 真	インターネット情報流通技術	オーム社	2000
総 長	長尾 真	IT革命最前線	(社)情報処理学会	2000
総 長	長尾 真	農業経済学ライブラリ - 1・2・3	酪農学園大学	1999-2000
総 長	長尾 真	Optimization and Chaos	Springer	2000
総 長	長尾 真	Advanced Multimedia Content Processing	Springer	1999
総 長	長尾 真	Theoretical Computer Science	Springer	2000
総 長	長尾 真	The Critical Link 2	John Benjamins B.V.	2000
総 長	長尾 真	Investigating Translation	John Benjamins B.V.	2000
総 長	長尾 真	Satellite Communications	オーム社	1997
総 長	長尾 真	Digital Broadcasting	オーム社	1998
総 長	長尾 真	Mobile Communications	オーム社	1997
総 長	長尾 真	Very Long Baseline Interferometer	オーム社	1997
総 長	長尾 真	Frontiers in Info-Communications Research	郵政省通信総合研究所	1999
総 長	長尾 真	Parallel and Distributed Computing for Symbolic and Irregular Applications	World Scientific	2000
農学部教授	祖田 修	農学原論	岩波書店	2000
名誉教授	高橋 幹二	History of Aerosol Science	Osterreichischen Akademie der Wissenschaften	2000
文学部教授	藤井 譲治	京都大学文学部日本史研究室関係日記目録	京大大学院文学研究科	2001
高等教育 助教授	石村 雅雄	大学授業のフィールドワーク	玉川大学出版部	2001
高等教育 助教授	石村 雅雄	「大学における教員養成」の歴史的研究	学文社	2001
高等教育 助教授	石村 雅雄	東南アジア諸国の国民統合と教育	東信堂	2001
総 長	長尾 真	20世紀放送史(上・下・年表)	日本放送協会	2001
東南ア研 研究員	Voon,Phin Keong	China-Japan Relations in Transition	Uni. Of Malaya Press	1998
教育学部教授	山田 洋子	カタログ現場心理学	金子書房	2001
分館長	杉浦 幸雄	A Curious & Ingenious Art	Uni. Of Iowa Press	2000
総人助教授	廣野由美子	十九世紀イギリス小説の技法	英宝社	1996
総人助教授	廣野由美子	「嵐が丘」の謎を解く	創元社	2001
総人助教授	廣野由美子	ヴィクトリア朝の小説	英宝社	1999
名誉教授	村畠 由直	森と木の経済学	(株)日本林業調査会	2001
教育学部 教授	川崎 良孝	名古屋大学「情報リテラシー教育に関する調査研究」研究会報告書	名古屋大学	2001

..... 図書館の動き

- 4月5日 水島裕文部科学大臣政務官来館
- 6日 附属図書館自動貸出返却装置 2台稼働
- 13日 全学共通科目「情報探索入門」開始(～7月13日)
- 17日 オランダ・グロ・ニンゲン大学教官・学生(27名)来館
- 19日 第1回静情編集委員会開催
- 23日 新入生歓迎オリエンテーション(～4月27日)
- 25日 近畿地区国立大学図書館協議会
近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会
- 27日 鹿児島国際大学附属図書館事務長補佐来館
- 5月11日 坂田文部科学省研究振興局審議官来館

目次

ビュフォンの博物誌	1
展示会のお知らせ	3
事務部長に着任して	4
Mizuta, Hiroshi 『Adam Smith's library; a catalogue. Oxford, Oxford Univ. Press, 2000』のことなど	5
京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター - 紹介	9
人事異動	10
蔵書統計(平成12年度)	11
教官寄贈図書(平成13年2月～4月)	12
図書館の動き	14

お詫び

静情第37巻4号の記事に誤りがありましたので、お詫び申し上げます。

頁等	誤り	訂正
3p上から5行目	日本産動植物	日本産動物

編集後記

さわやかな風が若葉を揺すり、新入生歓迎のざわめきも落ち着いてきました。大学も大学図書館も今、大きな岐路に立っているとの実感です。京都大学図書館の今をお伝えできるような「静情」をこれからも編集できればと思います。(C)